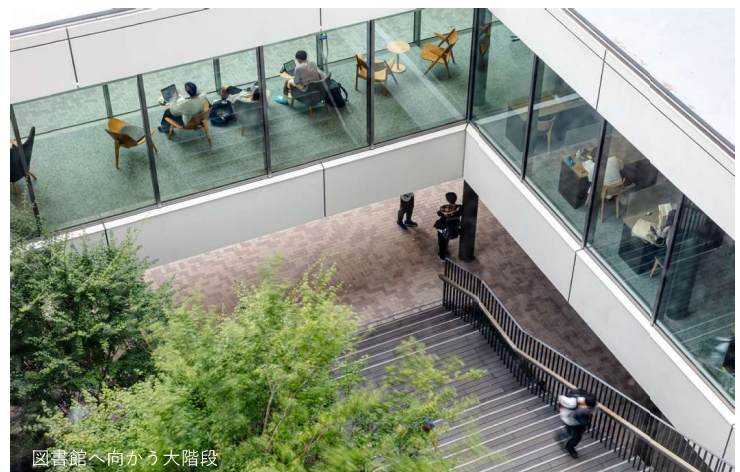




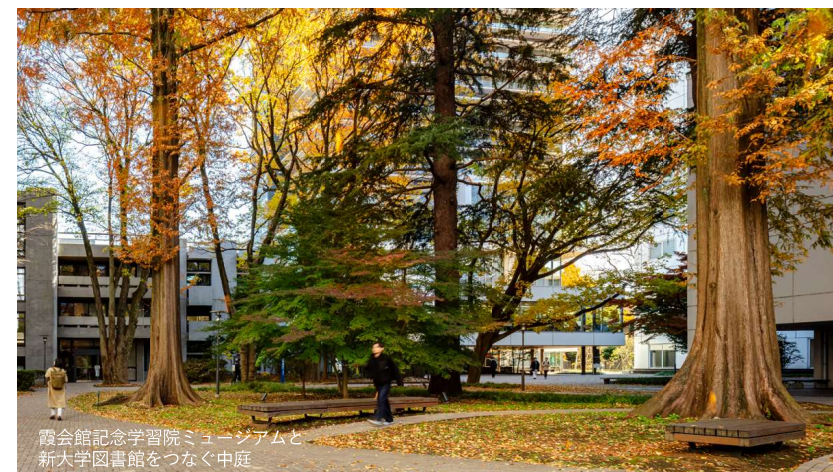
東1号館は、学習院の歴史や知の積み重ね、あるいは図書館の象徴である本を積み上げた様子をファサードで表しています。低層部では学生の動きが表出するガラス張りの階段室、高層部では日射遮蔽の役割を果たすプレキャストコンクリートの庇を積層しています。

学習院大学図書館

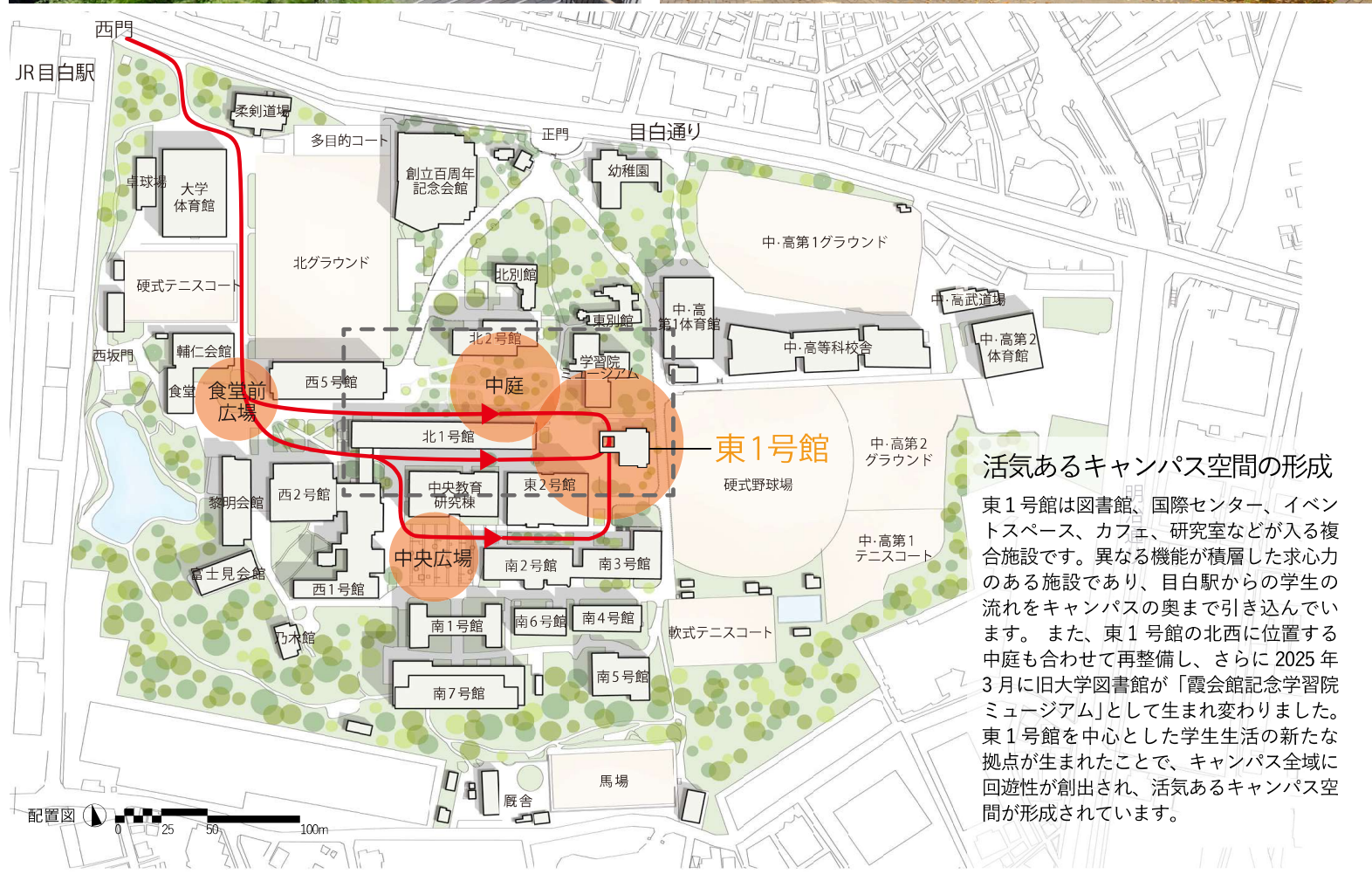
学習院大学は都心に位置しながら5学部17学科、大学院6研究科20専攻、専門職大学院（法科大学院）全てが集まる緑豊かなキャンパスです。その中で建設から50年以上が経過し、設備的な古さや建築上の制約等の問題を抱えていた旧大学図書館について、学習院大学の知的活動を支える一大拠点、言わば「目白の〈知〉の杜」として新たな大学図書館を建設するニーズが高まり、新東1号館建設の計画が始まりました。新東1号館建築計画のコンセプトは、「キャンパスに活気ある回遊性をつくること」「キャンパスの豊かな緑を視覚的につなぐこと」「図書館を訪れる人々の多様なニーズに応えるため様々な居場所をつくること」。とりわけ図書館においては「〈知〉と出会う場所とすること」「利用者と〈知〉をつなげるナビゲーターとしての役割を担うこと」「すべての利用者にとって居心地の良い空間を提供し〈知〉をはぐくむこと」を目指しました。



図書館へ向かう大階段



霞会館記念学習院ミュージアムと新大学図書館をつなぐ中庭



活気あるキャンパス空間の形成

東1号館は図書館、国際センター、イベントスペース、カフェ、研究室などが入る複合施設です。異なる機能が積層した求心力のある施設であり、目白駅からの学生の流れをキャンパスの奥まで引き込んでいます。また、東1号館の北西に位置する中庭も合わせて再整備し、さらに2025年3月に旧大学図書館が「霞会館記念学習院ミュージアム」として生まれ変わりました。東1号館を中心とした学生生活の新たな拠点が生まれたことで、キャンパス全域に回遊性が創出され、活気あるキャンパス空間が形成されています。



緑に囲まれた回廊状の自習室



図書館4階での音楽イベント

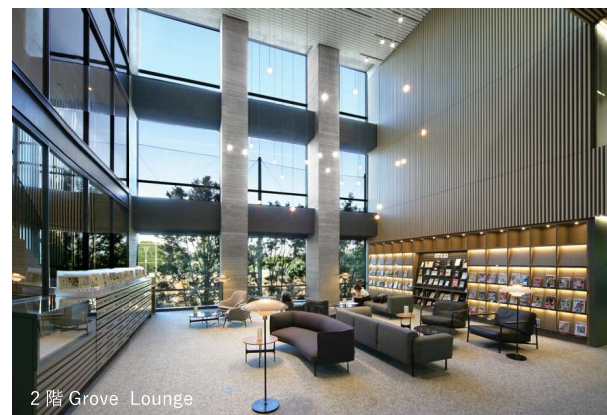
撮影：松浦ブンセイ



5階高書架・閲覧席



様々な学科と連携した展示



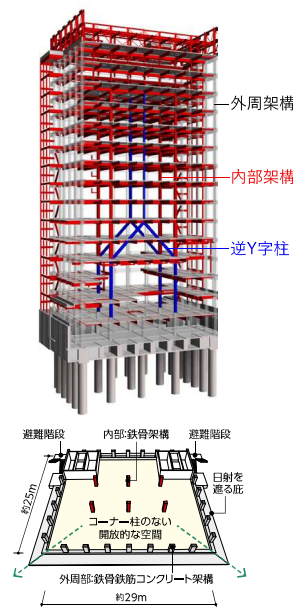
2階 Grove Lounge



利用者が自由に入れる7-10階集密書架

大空間を実現する構造計画

エントランスアトリウムの大きな無柱空間は逆Y字柱により柱の乗替えを行うことで実現しています。外周部を鉄骨鉄筋コンクリート造とすることで、主要な耐震要素を外殻で確保し、居室内部にはブレースをなくし、平面計画の自由度を高めています。

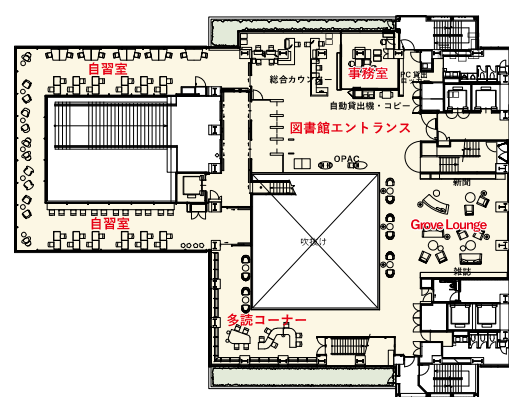


多様な機能が積層する

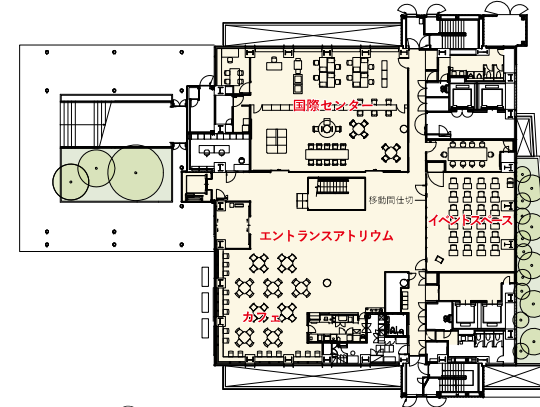
東1号館は1階に国際センターやイベントスペース、低層階に図書館開架・閲覧席エリア、中層階に集密書架エリア、高層階に研究室など様々な機能を積層した複合施設です。賑わいのある低層部から静かに学習ができる高層部へと音環境にグラデーションをつけることで学生が自分に合った学習の場を選ぶことができます。各所に設けた学生のための多様な居場所は建物を取り囲む外周階段によってつなぐられ、学生一人ひとりが建物を巡りながら自分に合った場所を見つけ、過ごすことができます。

音をコントロールする

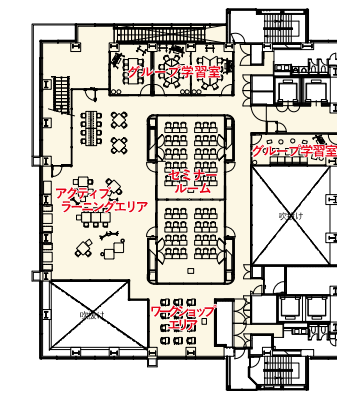
利用者が目的に応じて、ストレスを感じることなく学習できる音環境とするため、低層階はコミュニケーション・交流のエリア、高層階は自学自習の静粛エリアとゾーニングを段階的に定め、学習スタイルごとの棲み分けをしています。1階のカフェやイベントスペースで発生する音が2階の図書館にどの程度伝わるかのシミュレーションを行った上でエントランスアトリウムの内装設計を行いました。特に静寂性が求められる箇所には天井ルーバーの中にグラスウールボードを敷き詰めるなどの防音処理を行っています。



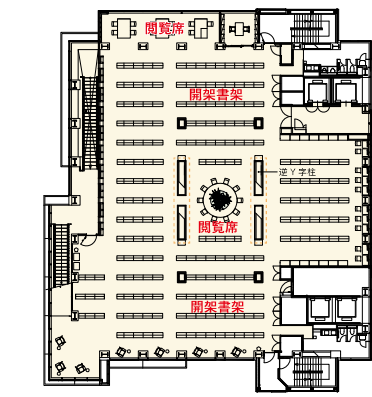
2階平面図



1階平面図



4階平面図



5階平面図

計画概要

図書館名 学習院大学大学図書館
所在地 東京都豊島区目白1丁目5番1号
収容力 1,139千冊
開館日 2023年4月3日
敷地面積 201,141.24㎡
建築面積 1276.22㎡
延床面積 12,806.21㎡
階数 地下1階 地上14階 塔屋1階
最高高さ 59.38m
設計監理 株式会社 日建設計
施工 大成建設 株式会社